



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/04/06(日)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 143

第 89 回天皇杯・第 80 回皇后杯

全日本総合バスケットボール選手権大会

アカシヤクラブ
野口 まゆみ

2013年12月6日～12月8日に江別市民体育館で全日本総合バスケットボール選手権大会北海道予選会が行われました。決勝でアカシヤクラブは札幌大学と戦い66対52で勝利することができました。

北海道予選会の後、倉島先生から指導者育成委員会からの原稿依頼をいただき、私の様な者がおこがましいとは思いましたが、北海道のバスケットボールの発展に少しでも力になることができるならと考えお受けすることにいたしました。途中不慣れな文章で皆様にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、若輩者の文章として温かく見守っていただけたら幸いです。

北海道予選の結果を受け2014年1月1日に行われた全日本選手権大会に北海道代表として参加してきました。第89回天皇杯・第80回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会 (ALL JAPAN) は高校・大学・実業団・クラブチームの中でバスケットボールの日本1を決める最も権威のある大会であり、私事ですが高校生の時から大学、実業団 (富士通 RedWave) を引退するまで15年連続で出場しており、クラブチームでの経験も加えますと現在で17回目の出場を果たすことができました。

私は沢山の経験をさせていただいたこの大会に大変思い入れがあります。2006年に富士通のバスケットボール部が創部初の優勝を果たした際にキャプテンとして、最後のウイニングボールを手にした時の喜びが今もなお鮮明に思い出されます。それから富士通は3年連続優勝を果たし (3連覇) 私は17回出場の中で優勝・3回、準優勝・2回、ベスト4・4回を経験し本当に充実した時間を過ごすことができました。また、その間に選手として最高の荣誉であるベスト5賞をいただくことができました。しかし上に書いた事は、ほんの一握りの喜びであり17回出場した大会では嬉しい事よりも実は辛く厳しい経験の方が多くありました。実際17回のうち、14回は敗者で終わっているのですから悔しい思いの方が多かったと思います。。。。。

私はこの経験から選手として「試合をするからには1番を取らなければならない」と思うようになりました。勝ち負けではなく勝つまでのプロセスを大切にされる方も沢山いらっしゃると思いますが、やはり優勝してこそわかることが沢山あり、どんな事でも頂点に立つには沢山の人の力無くしてその結果はありえないと経験したからです。勝負の世界ですから、「勝者と敗者」に分かれ大半が悔しい思いをしたいと思います。それでも言い訳をせず、負けを認め、いつかは勝者になるための努力を惜しまないこと、また全てをバスケットのために捧げる意識を持ち行動することもスポーツを志す者として大切なことだと考え着きました。

プロの世界や、常勝を続けているチームには優勝しか考えはなく「準優勝は1回戦負けと同じ」と考えています。それを初めて教えて下さったのは大学時代の恩師で、現シャンソン化粧品で指揮をとっていらっしゃる木村功監督です。当時高校卒業したばかりの私には、全てをバスケットボールのためだけに生活する毎日は異様に感じ、カルチャーショックを受けました。しかしそれがプロ意識を養う最初の一步だったと思います。

よく「相手の立場を考えて行動しなさい」と言われることがありますが、人間は本当に自分がその場面（立場）やその経験をしなければ気付かないことが沢山あります。バスケットに置き換えると、試合前の練習で「試合に負けてから努力しても遅いので、その前に努力をしなさい」とコーチに言われて練習をしていますが、実際試合に負けた悔しさから以前よりも練習を一生懸命するようになる選手が大半だと思います。その悔しさを経験する前に行動できる選手はほんの一握りの一流選手だけです。

私は3年前から山の手高校のコーチをさせていただく機会があり、指導者になって初めてわかることや悩むことが沢山あります。その中で、もがき考えながら思うことがあります。それは教えなくてもできる選手を育てても、本人の努力が大きくコーチの力ではないということです。大半の「経験しないと気付くことができない選手」が努力することで成長し、本人がそのことに少しでも気づけた時に私はコーチとしてこの上ない喜びを感じることができました。

沢山の経験から私が今伝えたいことがあります。それは、「バスケットを1番に考えて生活しながら練習をする」というプロセスを大切にすること、そして選手である以上は「勝負にこだわり最高の結果を求め続けること」が大切であることを伝えたいのです。コーチとして、プロセスの大切さを教えながら結果を迫及することのできる選手を育てることはとても難しく矛盾しているように感じますが、このことが今の私の考え方の基礎となり伝えたいことだと確信しています。

私は選手の立場からその考えを実行するために、アカシヤクラブが全国大会で結果を残すことが一番の課題だと感じています。しかし、ALL JAPANでは1回戦で専修大学に44対77で惨敗してしまいました。この大会での反省は沢山ありますが、良いところも感じることができました。体力の差が勝敗を分けることとなりましたが、技術面では勝るところがあったことです。後半になるにつれ体力の減少と共に点数に差がつくようになってしまいましたが、試合開始はアカシヤクラブがリードし専修大学が追う試合展開となって

いたからです。「体力があれば上を目指すことができる！」と気づけたことは良い経験でしたが、週2回程度の夜練習しかできないクラブチームが練習時間を増やし体力をつけることは並大抵の努力ではできません。しかし、選手である以上1番を目指す努力をしていきたいと思います。

また指導者の立場から考えることは、アカシヤクラブが小学校～高校・大学の目標になることができれば、北海道のバスケットボールの発展に少しでも力添えができるのではないかと考えています。他の都道府県を見ますと、小学校から大学まで全国大会で優勝する強い地域には必ず強い実業団のチームがあります。それは、幼い頃から身近に高い目標があり、小学生なら中学生、中学生なら高校生、高校生なら大学生・実業団と年齢を重ねるたびその少し上の実力のあるチームに胸を貸していただくことで成長できる環境が整っているからです。残念ながら北海道では女子のチームで実業団はなく、唯一できることはクラブチームが学生から目標に感じてもらえる立場になることだと思います。私自身まだ現役を続けているので、今後北海道のレベルアップに少しでも役立つように自分の経験を地域に還元していきたいと考えています。

まずは3月21日から愛知県で行われるクラブチームの全国大会で日本一になることを目指し努力していきたいと思います。またこれからもバスケットを愛し、色々な面から北海道のバスケットボールを盛り上げていきたいと考えております。